

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組 織

(1) 協議会名称

都立清瀬高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

副校長、保健総務部主任（＝事務局長）

計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路指導部主任、
保健総務部主任

計7名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（大学教授）1名、中学校・特別支援学校管理職3名、
地域の有識者・地域の関係者2名、校長が選任する保護者代表1名

計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回 令和6年6月12日（水）午後3時30分から 内部委員7名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画及び本校の現状と課題の説明、
昨年度の学校運営連絡協議会の課題

第2回 令和6年9月25日（水）午後3時30分から 内部委員6名、協議委員3名
本校の現状と課題の説明、学校評価アンケートの内容検討、意見交換

第3回 令和6年12月24日（火）午後3時30分から 内部委員7名、協議委員5名
本校の現状と課題の説明、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた
方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和5年6月12日（水） 午後3時00分から 内部委員2名、評価委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度における学校
評価アンケートの実施に向けた検討、今年度の学校評価アンケートの観点・項目・内
容・実施時期の検討

第2回 令和6年9月25日（水） 午後3時00分から 内部委員1名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケートの観点・項目・内容の最終検討

第3回 令和6年12月24日（火）午後3時00分から 内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケートの学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年
度に向けた方向性の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

① 生徒・保護者・教職員に対し、本校の教育活動全般について同じ評価アンケートを実施して

比較する。

- ② 地域住民に対しては、学校への理解の問いかけを中心に行う。

(2) アンケートの調査時期・対象・回収数

調査時期	令和6年10月末～令和5年11月末			
対象	生徒	854人	回収	854人(100.0%)
	保護者	854人	回収	620人(72.6%)
	本校教職員	57人	回収	57人(100%)
	地域住民	14人	回収	14人(100%)

(3) 主な評価項目

学習指導、生活指導、進路指導、学校生活、学校の特色、施設・設備、情報発信、ICT活用、ライフワークバランスの推進など

(4) 評価結果の概要及び分析

① 全体的な傾向について

- ・昨年度の肯定的な意見の数値よりも向上した項目は、21項目中で、1学年生徒が13項目、2学年生徒が14項目、3学年生徒が21項目であった。また、1学年の保護者は2項目、2学年保護者は12項目、3学年保護者は21項目であった。教職員は、16項目であった。1学年保護者の向上項目が少ないが、生徒・保護者共々学年が上がるにつれてその項目が増加しているのは、よい傾向であると捉えられる。

② 学習指導について

- ・生徒の授業についての評価は、全学年で、おおむね昨年度の評価より向上している。数値についても約7割から8割を示し、おおむね満足をしているが、さらに学びたくなる授業改善への要望がある。また、1学年保護者については、数値的には課題が残る結果であった。
- ・講習等、授業以外での学習の機会について、3学年生徒の満足度は高い一方で、1・2学年の保護者の満足度はあまり高くない。

③ 進路指導について

- ・生徒は年間多くの進路ガイダンスに加え担任との面談等も実施しているため、進路に関する情報提供については、1・2学年の生徒は昨年度とほぼ同数値の約8割、3年では9割を超えた高い数値で昨年度より満足度が向上した。しかし、1・2学年の保護者の数値は昨年度よりも低くなり、保護者にまで届く情報提供のシステムが課題である。

④ 学校行事について

- ・学校行事では、生徒及び保護者ともに昨年度の数値よりも向上し、満足度も高い。生徒による実行委員会形式での運営の実績と成果を今後もさらに期待したい。

⑤その他項目について

・ 学校内の施設・設備について

2・3 学年生徒及び保護者では昨年度よりも数値は向上しているが、1 学年生徒及び保護者は昨年度より低く、全体的には5 割程度で満足度は高くない。生徒や保護者による自由記述でも施設・設備等への指摘はあるが、教職員としても、6 割は施設・設備に関して課題を感じている。

・ I C T 教育推進について

全学年の生徒の約5 割が肯定的な意見であったが、全学年の保護者の肯定的な意見は、5 割に届かない結果となった。自由記述でも端末が有効に使われていないという指摘があり、東京都の一人1 台端末の取組に繋がった結果とはいえず、今後の課題の一つであると考えます。

・ 地域との連携した取り組みについて

1・2 学年生徒で昨年度よりも数値は向上したが、約5 割の肯定であった。保護者の肯定的な意見も3 学年の保護者は昨年度よりも向上したが、数値としては5 割であった。本校のスクールミッションである『地域に根ざし、地域に信頼される学校』は達成できているとはいえない。今後は、全教職員で共通理解を図るとともに、組織的に課題解決を図る必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① アンケートの結果や協議会では、授業や部活動など、本校が取り組んでいる内容が評価されている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 校舎の老朽化に伴い、改修が必要との声もあがっている。
- ② これからは私立高校との競争激化が見込まれ、募集対策に向けて、更なる情報の発信が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ① 都立高離れ、清瀬高校離れを防ぐため、広く PR していく方策を練る。
- ② 生徒の進路第一志望実現を目指し、文武の両立ができる生徒の育成を目指す。
- ③ 進路実現に向けた方針や取組を、保護者会や面談を通して更なる理解促進を図る。

(2) 学習指導

- ① さらに学びたくなる授業改善に向けて、学習方法の指導などさらなる取組が必要である。
- ② 自学自習に向けた環境整備を図り、部活動とのバランスを図る指導を一層推進する。
- ③ 講習等、授業以外での学習の機会についても更なる改善が必要である。

(3) 進路指導

- ① 各学年の三者面談を必要に応じて実施し、保護者と連携した進路指導を積極的に行う。
- ② 外部模試、進路講演会等のキャリアガイダンスを計画的に行う。そして、部活顧問と担任が連携を図り、生徒が学習と部活動の両立を一層図れるよう指導していく。

③模擬試験の定点観測を継続し、情報の共有を図り、学校全体で生徒の進路実現を推進する。

(4) 広報活動

①HP の更新回数を上げ、本校の教育活動全般を家庭・地域へ発信する。

②学校見学会・学校説明会等で、生徒を全面に出した取組みを継続していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 7名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
2	2				1	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

(1) より一層、広報活動の工夫を図り、本校の教育活動を積極的にアピールする。

(2) オンライン（Classi、Teams 等）の仕組みを積極的に活用し、生徒のみではなく保護者との連携に向けた方策を継続的に模索する。